

## 文化学園中期計画(2018年度～2022年度)

## 1. はじめに：中期計画策定に至る考え方

文化学園は、並木伊三郎と遠藤政次郎が開いた私塾が1923(大正12年)年6月23日にわが国初の洋裁教育の各種学校「文化裁縫女学校」として認可されて以来、その日を創立の日と定め、今年で97周年、2023年には創立100周年を迎えます。

創立100周年を迎えるに際し、本学園は、服飾・ファッション分野を主たる対象として専門的、また個性的教育研究機関としての使命を果たしてきた歴史を引き継ぎ、新たな時代への橋渡しをすべく、「中期計画」を策定することとしました。

少子高齢化、18歳人口の減少といった人口動態の変化、社会一般におけるグローバル化、そして高度情報化等に伴う、知識基盤社会の進展を背景に、本学園の教育研究活動のよりどころとなるわが国の高等教育の状況と、学園の「出口」とも密接につながってきた繊維・ファッション産業の構造は、日を追うごとに変化の度合いを大きくし、速度を速めております。

本学園を取り巻く情勢は引き続き変化を続けており、不確実性の度合いを高めていることは言うに及びません。こうした厳しい情勢にあってもそれに流されず、新たな時代に向かって、より望ましい教育研究の成果を生み出していくこと、またそれらをもって本学園の社会的存在意義を確かなものとしていくために必要なことは何か。この問いに対して本学園は、学校法人経営の両輪である「教育研究」と「管理運営」の双方にわたり、絶えず「自らも変化すること」である、と判断いたしました。

本学園の歴史を振り返れば、創立の直後にあっては「一般の家庭婦人における洋裁技術の普及」を担い、高度経済成長期とそれ以降の時期にあっては「服飾に関わる産業への、良質な人と技術の供給」を担い、そしてこれらとともに現在は広く「ファッションに関する学び」の意欲を受けとめる役割を果たしてきたと言えます。すなわちこのことは、教職員のたゆまぬ努力と関係諸ステークホルダーの協力により、環境の変化—社会、産業の要請、また何よりもそれに伴う教育の要請—とともに、本学園が適切に変化をしてきたということに他なりません。

中期計画の策定にあたっては、「服飾・ファッション分野にルーツを持つ専門的、また個性的教育研究機関である」という文化学園本来の自己認識に立ち戻り、また同時に学園全体として描く将来像、さらに向こう5年間の諸施策の基本方針とする「中期目標」を定め、これら自己認識、将来像そして中期目標の下、本学園が擁する教育組織各校の基本理念とそれらが掲げる「創立100周年(2023年度)時点の将来像」を再確認することから始めました。

服飾・ファッション分野を中心とした諸産業と社会一般に対して、それらの変化に対応しながら質の高い人材を送り出してきたこれまでの伝統を踏まえて、今後のあるべき姿(つまり変化の方向)を明確にし、創立100周年に向けて目指すべき方向として、2018年にこの中期計画を定めました。

この度の私立学校法改正により、2020年4月より、学校法人に中期的な計画の策定が義務付けられることになったため、この機会に中期計画を若干見直し、整理を行い、学園全体のものとして改めて策定することとしたものです。

## 2. 文化学園の将来像(長期目標)

文化学園の将来像(長期目標)
国際性と多様性を伴った、世界最高水準のファッション総合教育機関の実現

本学園が目指すのは、「国際性と多様性を伴った、世界最高水準のファッション総合教育機関の実現」です。また、それを通じて、わが国と世界のファッション教育と、それに関連する産業の振興を図ること。学園が将来像として描くのはそのような姿です。

したがって、わたしたちが、これから行うあらゆる事業は、現在の文化学園の姿を、将来の文化学園の姿に近づけていくという営みであると言えます

その営みは、これまでの教育組織各校、附属諸機関、収益事業組織および本部組織が蓄積した成果をより発展させる活動でもあり、それらの基盤を強化する活動でもあり、また、将来への布石づくりの活動でもあります。もちろん、既存事業の見直しを含めた選択と集中の取り組みも大胆に行っていく必要があります。

## 3. 文化学園の中期目標(2018年～22年)

中期計画の基本となるのは、各学校および部署で作成した個々の中期計画(2018年～22年間の重点施策)です。それらをすべて、上に述べた一つの将来像につなげていくにあたり、目指すべき「中期目標」を定めました。中期目標は、「学園全体」「教育組織」「附属諸機関、収益事業組織および本部組織」それぞれが行う諸事業の立案、実施において、基本方針としての役割を果たすものです。

学園全体の中期目標(2018年～22年)	
「学生の学びの意欲に応える」「良質な卒業生の輩出」「研究成果の創出」「産業との接続」を核とした、ファッション総合教育の質的充実	
教育組織	附属諸機関、収益事業組織および本部組織
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ファッション総合教育機関として相応しい機能の強化と質の高い成果の創出および社会に対する還元</li> <li>● 活動展開に有利な環境の積極的・能動的な創生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学園の本務たる教育研究活動に十分に資する組織体制の強化および環境の整備</li> </ul>

学園全体として中期目標(基本方針)に掲げるのは、「学生の学びの意欲に応える」「良質な卒業生の輩出」「研究成果の創出」「産業との接続」を核とした、ファッション総合教育の質的充実です。

教育組織が掲げるのは、「ファッション総合教育機関として相応しい機能の強化と質の高い成果の創出および社会に対する還元」および「活動展開に有利な環境の積極的・能動的な創生」です。わたしたちの教育事業は、洋裁教育、ファッション教育の世界を自ら切り拓き、そこに生き、成長してきたものであります。つまり、自らが生きる環境は自らで創り出してきたのです。今後もこの姿勢を緩めることなく教育研究に取り組みます。

一方、附属諸機関、収益事業組織および本部組織が掲げるのは、「学園の本務たる教育研究活動に十分に資する組織体制および制度環境の整備と強化」です。教育部門の要請に応えることはもとより、社会環境、行政・制度環境、さらには AI・RPA といった技術的環境の変化を積極的に受け止めて活用し、より効果的に、また効率的に教育事業に貢献し、また学園経営の持続性を担保するために、既存の諸事業、諸制度の見直し、また財務基盤の強化と戦略的な管理運営体制の整備に取り組みます。

#### 4. 主要 4 校の基本理念と将来像

##### ● 文化学園大学・文化学園大学短期大学部

文化学園大学・文化学園大学短期大学部の基本理念(建学の精神)
新しい美と文化の創造

- 創立 100 周年(2023 年度)時点の将来像
  - ◇ ファッションを中心とした、造形、建築、観光等の領域から成る総合大学としての地歩確立
  - ◇ 学園における「学術研究の拠点」の役割達成
  - ◇ 総合教養と専門分野のバランスの取れた、主体的行動のできる人材育成
  - ◇ 「ファッションを学ぶなら文化」の認識を社会で再生

##### ● 文化ファッション大学院大学

文化ファッション大学院大学の基本理念(建学の精神)
ファッション分野における知財創造ビジネスのビジネスモデルを確立し、国際的に通用するファッション価値を創造・具現化させ、グローバル視点に立つ独自のブランドを確立できる人材を育成する

- 創立 100 周年(2023 年度)時点の将来像
  - ◇ 「世界トップレベルのファッション大学院」の認知確立
  - ◇ 入学定員・収容定員の充足と多様な学生の確保
  - ◇ 進化・発展を継続させる授業科目・教育課程の編成・実施

##### ● 文化服装学院

文化服装学院の基本理念
服飾に関する専門知識・技術を教授研究し、服飾教育界・産業界に貢献するとともに、高度な技術と教養を備えた創造性豊かな人材を育成する

- 創立 100 周年(2023 年度)時点の将来像
  - ◇ 「永続的に評価の高いファッションスクール」運営の確立
  - ◇ 学習満足度の向上
  - ◇ 教育の質保証および教員の専門性の確立と強化
  - ◇ 学生数 3,500 名の獲得と維持

##### ● 文化外国語専門学校

文化外国語専門学校の基本理念
国境を越えて理解し合うためのコミュニケーション力を日本語を通じて養う

- 創立 100 周年(2023 年度)時点の将来像
  - ◇ 「90 の国から累計 9,000 人の留学生」の達成
  - ◇ 経営の安定化達成
  - ◇ オール文化の「つなぎ役」の役割達成と継続

## 5. 2018 年度から 2022 年年度までの重点施策

各学校は、それぞれの基本理念に拠って立ち、学園創立 100 周年(2023 年度)時点での個々の将来像の実現に向けた 2018 年～2022 年度間の諸事業を推進します。学校ごとの個々の事業計画は以下の重点施策の下に行うものとしします。また、各学校が認証評価またはそれに準ずる外部評価を受審した際は、その結果を実行期間中の重点施策及び諸計画の修正、さらに次期中期計画の立案に反映させるものとしします。

学校	重点施策
文化学園大学 文化学園大学短期大学部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバル化する社会に適合する教育研究環境の整備</li> <li>2. 若手教員の研究促進、学生の創造性の育成および産学・地域連携による教育の充実</li> <li>3. 短期大学部は 2020 年度入学生を最後に学生募集を停止し、これまでの教育研究に関するリソースは大学が継承する。</li> <li>4. 現行の学部学科構成の見直し</li> <li>5. 教育・研究水準の向上および社会の変化に対応し得るカリキュラムの改善</li> <li>6. 学生同士が支援し合うピアサポートシステムの構築</li> <li>7. 学生の入学定員の適正規模化</li> <li>8. 入学定員充足と退学者数減少、また専任教員数の適正化と職員数の抑制</li> <li>9. 2017 年度に受審した認証評価において改善を求められた点(一部学科の定員充足率の改善、教授会規程の改定)については適切に対応</li> </ol>
文化ファッション大学院大学	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 3つのポリシーの実質化</li> <li>2. 学修成果・教育成果の把握・可視化</li> <li>3. 産官学との連携事業の充実</li> <li>4. 教育・研究活動基盤の整備</li> <li>5. 教育環境の改善と設備の充実</li> <li>6. キャリア支援プログラムの拡充と起業・就職率の向上</li> <li>7. 教育の質保証の推進</li> <li>8. 留学生比率の適正化および日本人学生の確保</li> </ol>
文化服装学院	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 適正クラスサイズの検討</li> <li>2. 教員人事・評価システムの検討</li> <li>3. 教育にかかる施設環境整備</li> <li>4. 学生募集および学生のキャリアにかかる情報分析活動の推進</li> </ol>
文化外国語専門学校	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 海外事務所を中心に優秀な留学生 350 人の継続確保</li> <li>2. 文化学園内進学者の多国籍化の推進</li> </ol>
文化学園大学附属幼稚園	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自治体との連携の円滑化に基づく、給付や支援等の積極的獲得</li> <li>2. 積極的な募集広報活動の推進</li> </ol>

	3. 園の活動、周辺環境、施設設備の魅力の一層の周知
文化学園大学附属すみれ幼稚園	1. 預かり保育の体制充実に基づく園児数の拡大 2. 積極的な広報活動の推進 3. 補助金獲得による財務基盤の充実

附属諸機関、収益事業組織および本部組織は、これらを支えるための制度整備、事業推進を行うものとします。その取り組みにあたっては従来の慣習や制度にとらわれず、学園及び各学校の将来像の実現に向けた実践とすることを心がけます。重点施策は以下の通りです。

部門	重点施策
附属学生支援機関	<p>学園が目指す「多様性」を実現するための多面的支援を強化する。</p> <p>【学園就職支援室】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生のニーズに即した多様な就職先を開拓する。</li> <li>2. インターンシップや海外求人への対応を充実させる。</li> </ol> <p>【学生生活支援室】</p> <p>障がいを持つ学生や留学生の増加など、学生における多様化に対応し、「なんでも相談室」「誰でも談話室」「学習サポート塾」の3室が連携して、学生の健全な成長を教育的に支援する。</p>
附属機関	<p>【文化学園図書館】</p> <p>「高等教育機関の図書館」「服飾の専門図書館」という二つの役割に基づく存在感の発揮</p> <p>【文化学園服飾博物館】</p> <p>既存資料の調査・整備と、教育・研究への効果的活用</p> <p>【文化学園ファッションリソースセンター】</p> <p>各研究室の既存資料の活用とデータベース強化による安定した教育支援の基盤整備</p> <p>【文化学園知財センター】</p> <p>知的財産の権利化業務の推進と、学内における啓発活動の推進</p>
附属研究所	<p>【文化ファッション研究機構】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内公募型共同研究と若手研究奨励金で採択した研究の推進を主軸とした、学園全体の研究遂行力の強化</li> <li>2. 研究成果の積極的な公開</li> <li>3. 外部研究者との交流による服飾研究のイノベーション創出</li> <li>4. 本学園の重要な教育・研究基盤としての和装文化のアーカイブ化の取り組み</li> </ol>
附属国際交流機関	<p>学園が目指す「国際性」を実現するための要としての実践を強化する。</p> <p>【文化学園国際交流センター】</p> <p>海外提携校との交流を深めるとともに、海外講師によるセミナーなどを開講して、学生の国際的視野を醸成する。</p> <p>【文化学園国際ファッション産学推進機構】</p> <p>急速に変動する社会情勢を学園内に取り込み、国内外の企業とのコラボレーションを推進する。</p>

<p>収益事業 組織</p>	<p>【出版事業部】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 部門ごとの収支、存在意義、適正人員等を明確にした継続方法の検討と実践</li> <li>2. 学校と学生、ファッションと学生を繋ぐための集団としての行動・提案</li> </ol> <p>【購買事業部】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電子マネーサービスの構築</li> <li>2. 学園ショップのスマホ向けアプリの構築とネットショップのリニューアル</li> <li>3. 文化学園創立 100 周年記念オリジナルモデル商品の開発</li> </ol>
<p>本部組織</p>	<p>【総務部門】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 役員、理事会、評議員会の適正な機能発揮、ならびに各学校の自主性発揮と学園としての一体性の確保に基づくガバナンスの強化</li> <li>2. 法令の遵守、およびハラスメント防止・対応システムの整備を通じたコンプライアンスの徹底</li> <li>3. 計画的な職員採用、および職員研修の充実</li> <li>4. 業務の効率化・合理化、およびワークライフバランスの確保に基づく職場環境の改善・向上</li> <li>5. 創立 100 周年記念事業の検討と推進</li> <li>6. 危機管理体制の確立</li> </ol> <p>【経理部門】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経常収支差額を恒常的にプラスとする、安定した財務体質の確保</li> <li>2. 施設・設備の整備計画のための資金の内部留保</li> <li>3. ICT を活用した授業や e-learning に対応できる環境の提供【IT 戦略関連】</li> <li>4. 学内ネットワークの安全性の強化と、効率的な利用環境の提供【IT 戦略関連】</li> </ol> <p>【施設部門】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健全な教育環境の提供</li> <li>2. 施設・設備における安全の質の向上</li> <li>3. 安全・安心を重視した、施設・設備のリノベーション</li> <li>4. 防災備蓄備品の計画的な確保と、災害に強いインフラの整備</li> <li>5. 全学的なバリアフリーの展開</li> <li>6. 法令に基づくエネルギー削減</li> <li>7. 代々木の街と調和するキャンパスの緑化・美化</li> <li>8. 長期修繕計画を基に適正な資産管理【ビル事業関連】</li> <li>9. 教育事業支援のために安定的な事業推進【ビル事業関連】</li> <li>10. 収支均衡を考慮しながら、安心・安全な施設の運営【研修施設関連】</li> </ol>

## 6. 計画を効果的かつ実質的なものとするために

計画を効果的かつ実質的なものとするために、本学園として以下3点に留意し、あわせてそれに基づく実行および点検・評価の体制を整備するものとします。

### ① 個々の事業については、学園全体の将来像と方針に則る

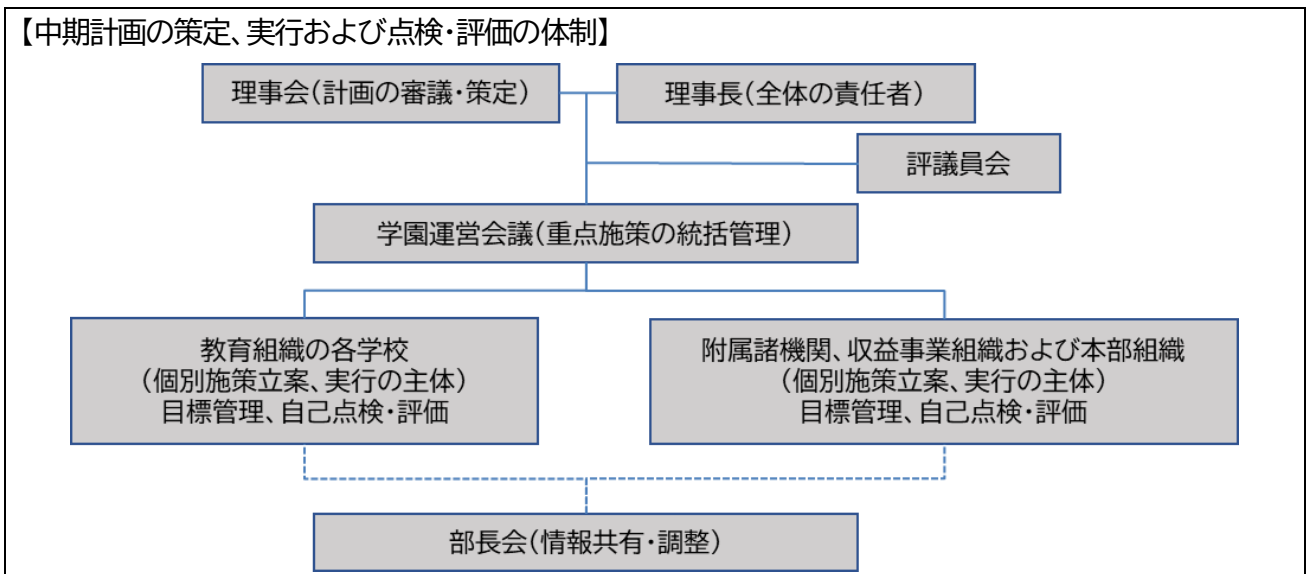
教育組織の各学校、ならびに附属諸機関、収益事業組織および本部組織の各部門が個々に策定した計画の実行と点検・評価にあたっては、何よりもまず「国際性と多様性を伴った世界最高水準のファッション教育機関」という将来像を念頭に置くものとします。これは、文化学園全体としての一体性を築くうえで、最も大事なことです。

### ② 計画は、「選択と集中」の指針としての役割も担う

中期計画に基づき立案、実行する事業・施策は、いわゆる「総花的」なものであってはならないということです。中期計画は、本学園にとって、また各学校、部門にとって「なにを重点化するのか」また「何を後回しにするのか」の指針としても活用していくものです。

### ③ 計画達成の要諦は、「自己点検・評価」にある

計画の達成にあたっては、その進捗管理、すなわち途中段階での定期的な「自己点検・評価」が重要な役割を果たすということです。したがって、各学校および部門は、これまで以上に、自己点検・評価活動の実質化に取り組むものとします。



学園創立100周年を見据えた今、本学園は、これまでの役割を通して培ってきた伝統を大切にしつつ、不確実の度合いを強める環境に柔軟に対応できるよう、教育研究において、また経営において必要な変化を試みていきます。

ファッション総合教育機関として地歩を固めた本学園が今後、よりその質を高め、そして成果を日本の、また世界の教育界と産業界に還元するために、本学園の教職員すべてが協力して、このたび策定した中期計画を力強く前進させてまいります。

以上



